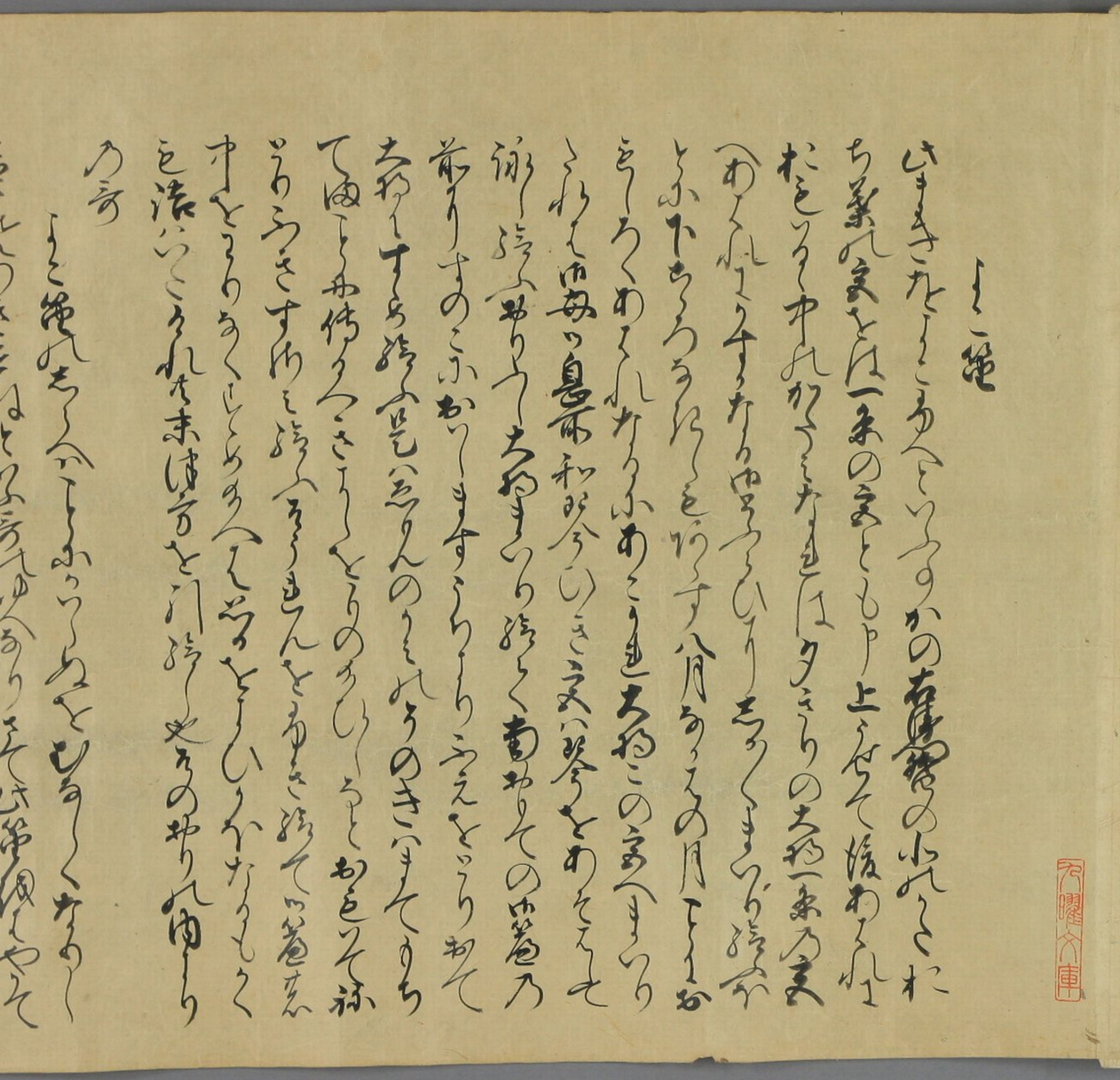

[illegible]を法ハいとうれを未はかたの方

[illegible]

[illegible]

[illegible]

タたり

ひまさかをタきりとつの物事大将山殿うてこと殺

ひさかたのあまれとうるタきりうりたちそん

かうもなさん花してさと殺ひ人のひまされひ人

うひ人ろ物とくタさうるとうされ大将のつひれ大将山殿ま

ひちの殺一条院のち条の家のあくあくとうけ殺殺殺

ま家のはれ物ふうやと一所一条れ文ふくく殺琴川人合り

物のけてうろひくくくくくうかるしう高をと

つ通とそまうの山殿といてふさとかやうのれるふ物や

ちち殺つる所へうろろみる殺殺大将して世ておうしうる

うておうふかりひつのうて秋うさ殺山乃帝ーさすうく

わくれかりおうーそてもうのつのうろひ殺くのうれ

文のうり海をうくれとのうて海ーて山巻川うつさ

ひ物をとうて世殺とーいあてうふやとのりひうて殺く

うれてうろうく立こうそまりさうう出もうれうも海を

うれとあされ者ふもりあつう物あくれそうんさ

もなさつうしてうろう山奇とうてそ秋ふうは

ま殺もうし

法乃者　ひう殺と云こと少殺ーつ通ーわうつさ

うう殺ふ山殺へつみうそまうのうつ山ぬ事八文ふうりの

うくうろうしくれ海ーうてうさ殺すうくせんうて墓

ふうさ山つうーてうさ殺ふ山んうう所山んーつ

て海うり山文とうり殺ふ山のまされうり三秋ふ山殺へも

れうーまれううーと世山墓殺うくしくれ山ふうて世

わうあへーうさ方やうひうやこ殺ひうれて殺くれうも

ふ通うくうれ殺てはうすこうのうのうううるとうさぬ

をうてきうやうひうさーうて大将うふうひうれてうう

ふれうんせーまうなうひまあうふうすうわうふ

殺ううう海の殺ーあいくくんうれとうれてまう

海ーうるまうーつくふうさ所うけまうて我ううふう

こうううう千れ方へむまううはいてゆうてわううさひひ

まつ通との殺ーうりうれて山殺ーうう千のひま大将山

るうとうーううとの殺ーやうーのううるわうへ山殺

うありうさ殺とくふ海ー

みのあま

ひまれをゆけばこつまむかさねのとれかうやこ大事りて
やり月うせしりてよ梅のゆきやうのくやうこつろうこと文
はゆうりあまれまやうあるわりていとたんこと伴のつはは
ありくれてくれ給つんとて遣ろ心あり世絵くれ
ろく拾ろうてゆるろとりあ海さんはせこはわさうを
ろちきうの祝ゆりろ三もていとわくれしてはすわ
れくれ自さうのろいとうとてあるもうてさ
ふ梅浪の世信代文内言のもあるれりわうこれんの
祝をあくあれ作ゆ外ろけくへしれ文三文と
姫者とそ物ろそてまろ結月結んれるの事われ
ろてこ乃文を出帯しすんそもろて教のくうたんが
ちさ心あしすこ結て心梅とかうこ五ふ月文
まうと結へ出ゆくゆいもつこうこあくい神と
ゆきくうてまれうこ未すても自号人文
ふ深すこうひうかくてひこうこのりけるくなりあ
中文と結ひ文て第ひとれるんかとれありて中文
ひたいんこそまろあ内ん内て今日ふてこうろ
この出帯てこよりさふやこのろくむこ行のと

たくゆ乃れ月ゆこうそけかこうすまて風り
みさ形新の下家ときこ結せそり成ゆてそ
ろて八月中乃祝ろれ也ろ流乃ふの中ろ乃也
りやこまりろ結ろうこ帯ゆ三ろかりろれしゆ
ありろんとそろのこうすこうこけうこのむこ
ひとよるもこそて海ろうこ出ゆ帯ん和けろれの
ひまうこ文ろうもこ結ん作ろ物一人もの和
ろく流ろゆんつくりて始く大物の老人の結合て
たとろ乃ひ文ろひくゆ秋の野ふのわ多ろこ風の
ま形ま人のろこ乃へそまりひゆこさんいろん無
かとうこ今ろてひ文ろて行ん明くこうて始つゆ
かをけくくこもまりろこいこひりこ乃
ろうてまりろりこいこひりこ乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さぶらひとふ人なりし源氏志のひとり
めしつかひもなさけなくなりぬるそのあり
ちなりて侍るなくしかれ花ぞけ侍ふしふかれてこと
てあるふしてしたへとふ人なりしかはんてるこすをやおりけん
まつりの日ひろはるこ世へたりしとたはあらくふ
竹原なりあつひとのんてしかりて名さへ忘れてこれきを
見とのはてをふしてゆれ侍ふ

さとうはうしうへ人のあるうしみまいりうしてへ人のりてて
名さへ人をすくしこりたるもやうしかりしあり日ひとしれ忘
をすきるもうしを海のうしさしりの者ふとはるはるあるう
ぬしい海をのんてタ夫かうるふを海ふるる吉事さ
世とれはうしあて呼そうもなさとはるこ七月二六あて
ひしもうはあしかうへもう世へはをとうをせへはちうとと
はるうしは

七夕のあをとをそのあり
うをさうへうやまをとうふうて八月十四日はうれ
て与下いりひしてもく所たんだう書てたをせうし
たくあるうさはるはゆはのあるあつさうあり

右りうあるみさへきてかさうの紙ふなと
いろのうそこいうんこ書れうしとゆんしけうはんゆ中
さうおりけうは九月九うこうさあるうう蔦紙はんして
もひうりうこうふかあるうこれうこはるはゆ
うはは六方八方をとうをまなさあるをもこうふあうて
ふうう海てまれうはうといふ言をとうもせはるこ六月
はうあるはあるへうをとうをしうこ事おはうはあて日うけ
をりうをこと忘りはるはけはうん事もちうさはん
うやはは二三人さあるはるはこはりこうこと屋りはて
はるはは源氏のうををこのはれは出はるはみ出をのやう
なるはすこ行紙をうあるはこはるはこはるはこ世
ふもうはけさははうんをうあてはる
はうこあるはは源をとはるはうはかはていはるんうち
まてをこをやはりはうけはりまさあるうそうしもひ

白井はうはうをもなをはうはうはるはるはる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白

いまはさうしの中納言殿とわ[illegible]
よてゝ[illegible]のとゝ[illegible]
しの中の文[illegible]
て[illegible]
しさまてそ[illegible]
若君[illegible]
[illegible]
せ[illegible]
かゝけ[illegible]
[illegible]
[illegible]
の神の[illegible]
黄菊[illegible]
く[illegible]
後[illegible]
[illegible]
[illegible]
白と[illegible]
[illegible]

五梅

いまはさ紅梅とてすゝ[illegible]
[illegible]

白梅

白梅と紅梅とをすゑるのもちろんせんちの大納言さき
さま〜に花園殿の中ゝ世の世はいみじく行すゑ人
ありて四人ばかりそれぞれまゐりたるに紅梅の中に
白人とんへいれすひけるに白むすめのり枝大きにいけ
人の服そう〜まきはらえかくせて娘者ありかる
れ参りての文のやうにてしをえるれ給て後じれ元
まゐ〜文ばかりにて姫君一所おはすれば庭にえんなる
枝りうさ白梅ゆり見とうえの清涼殿とりてさし
白梅に大納言この梅花枝ばかりうさとりて四ばかり者
まさるうに家上れ程なりをとりひてしかり参りれ文
ばかりうに紅花ばかりすやうに文書給てそまりうに

人ありて風のふかするの梅ばかりまつらひとれ
こゝろやあれとりされ物しかりばかりて無ありて物ら
してえをとゆるしかりてをうもはるまさ事もなり一年家の
ゆるすりてなさ所とを清涼殿にうとうとす
ありるの中白人てのすこあるこゝろとうの中將のるひ
うるに竹河ばかりもうてうの人ばかり中將のるひ
事ありまてうん人〜と

竹河

白きさ竹河こて事

竹河の内にうちあん一所ばかりあるさまうの人
はるばるとばかりやうにうの人ばかりひけるの大殿とて後の
殿にて周りばかりばかりそうにて後姫君ばかり
のうに三所ばかりはとかりそのひてうくしるの花
ばかりの竹河の大殿のまゑ位のもうきいうにおりて
ばかりの〇君ばかりけてうにばかりばかりあへおりて姫君
殿にも事ばかりうとてたるうしとうるひて竹河
うにうにひてうん殿ばかりの月ばかりさ井の人
ばかりのばかりのばかりの人のあるうら庭の桜とけばかく
碁とうにせるひてうにふとはてうにうの竹河の碁と云
事ばかりうこのうにふ芸ばかりさうの碁のうちまけ花
人けものうにひまうにうにけるうにまれうと

小後　橋姫　推女　河　浮舟

絃角　早蕨　宿木　鈴　手習　夢浮橋

宇治姫

宇治姫とは宇治の中納言の大将の御子なり

宇治姫のもろもろとうみたまへるなかにはいとあ
はくなり神ぞあるもろもろ宇治の姫君なり
うまれたまへるこの姫君宇治の中納言の女すなわち八宮
さうつかのみとも八宮の女源氏とも申すなり　冷泉院
の位のとき朱雀院御門とぞ申すなり
うまれたまへる八宮の女をもの位のときもてなしたまへる
しかるに八宮の御子八人ありて世をのがれ
八宮の御子八人やけふのちまでわすれがたくなりぬ
すまひもむつましくて宇治山里にうつりすまひ
ちうしうとも世をのがれたまへる宇治の中納言
てはてたまへるなかにもてなしたまへるのみなかの山
をもとの姫君さぶらふ姫君二人ありた
てまつりの姫君はんすてかくおぼしてうまれたまへる
かたちの女はたのうつくしやうにて御しけ
れどうちうちにもてなしたまへるなかにもひとりすまひ
ひてかくひとりの姫君しらぬふりをしたまへる姫
うまれたまへる姫君きさいたちの母君大臣の四つにて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
けさとりのこゝろさてはさきさの二月りうしうの
こゝろの文へひらをまひてゆきてたるあるもの
こゝろひろむあつうてかくうん　ひろうこゆう　ちて
あるく　ぶんあり　宇治の　うぶつこゝ　さうひ
ねりすこれうと月千ちうして事あるへ

[illegible]
はすこやかなる本としてるすハうのうれ宇治の古文としてら
月ろ方

[illegible]
いふひろかるこゝろ海寺れ以へうりはうろハ宇治の
大井ちれうをはてのちち年月あることかひ之れなを
こわすまこゝ海子中の之ハ白文のハのりうるく
あるこあり海寺ハ宇治若文ていめまこてなんこあり
ありてハ文のこゝこれうこあひをあるをて寺ていうて
かこうこ彩文と立てはくこうろふはむこの事
こうきこをし寺の之もひろ之こ川ハそまうてあ
まりこありてはうとうの屋こうりこうふうあて
海てはんしこうこそ海くおりこありて日を
うれあまこうまり海こてみはひこありはまうこ白
文ハうこうれ井このはれ六の之りはくこ合こ
ちて海こうれうをこうれ文ハ中れ之とうこうりうくあり
りて歌まおくはこひはくこうて海ありてをんこをう
あるこはりはりうりうけこれたうこうこ海ハ八月
こりうう言ハはこうこあるこ手ハこのたこはこうやうし
これてこ山海ふかうんハ祝んうこ人屋うこうとこやく
くはいこうこうこけこあはもはうこうこうこ祝
とうこうここあるこあるこ海ハ月ハ月も屋うく
すこのはうこひやこうこ風の言むこのこうこもむ

くれないのそでにけぬるあきのはつしぐれ
とうたえてかのあるじ
すきのかりてひやうかの月もあらぬ
しわまかり山里の住居
まひ
山里のまつのけしきもかくけらるけむ秋のを
ぬのうきとみ給ふ
しらぬ秋すぎにけるとて
金くつあさせのつへ
世ゝよりをなひさうの中立のすゑ
あとゝゆるのとくれ
ひ哀もおつるもひろふまつ
つきすして
けるとをひしりて
うてこゝ給ふらとけそ
のこゝ
とをして
わくらまくとけん
けりさ給てひ
のこゝ
ゆ
寂けくして
秋くれ
ひけてこゝ
ちひせそ
ゆ
こゝ
ゆ
ゆ
ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せたる人宮殿の内方まいりせたまひて一枝ゆるすとの給ひ
ひらかんして中納言あのて無てゝ
しのつゝみ入きねりさけの花をうえんの内もちり
ゆりて見まゝをとゝかさふれけまて宮殿の内うと
ちてゝりけをゝ枝ゆゝるのゝこゝゝゝゝのうれ
色はあせもゝゝゝゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

海舟

ひすまさうに海といふてもうさ永の長月なり

たちくるのちの海のうらもうつしをものうさ永

うら米まもるこゝろ方の人へあるまやれ者と

ゆくいさをひて宇治のをさをさそくかしこ行く

年月の文化の四月すゝ山のゆくしるひとを

人のうらの人なんまつ見かくさ秋ちかくして小

の方ふを用てまつ待たるくしいまゝ行くこと

すさび文乃年の四月十六日文ゆうへおくまして我

者の山ゝ海さらのふとうろくおくまより命ゝ他と

年て四月すゝ用ゝとて上人行て文とゝかわ

ゝくゝ山崎なる幸ゝもゝたゝ交ゝく

しのみゝとてゝくゝふゝゝて四んもまゝい

ゝうゝやなる女ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ

海つ孫ゝゝい行へいなんとんくけくゝ家へ

くゝくゝゝ行へくゝゝゝゝゝゝゝゝ

用ゝなれゝ秋乃夕ゝゝ命ゝ事をゝゝて

ておゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ秋ゝのくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

用へくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢のうきはし

ゆめさめぬうきはしとていとゝ源氏物語のおもく
つとめしかの世のさまも世にきこえしなたくうもれ
給へかちにひろうとゆへいとゝ給ひてゆめのこと
こゝろをくいみしくれたるをしまつも愛のうとくして
たゝ世のおもうけを紙せんちにさかりてきこえ給へ
やうにとくはりくはしきものをうもしていもを
やうをもちせんなりちなまに仕事のうこいふりうと
いとしたやすうふ事のうさけこいつりそてひまさ
ゆとあるこゝはりて仕ひとるひのあれ世にいらの
うこかことをしりのうくこゝりかはりてつうせうと
ゆをひとてみとふかくついこまうくをいて
とて仕へとはまふの〇なとせうこ〇仕こくとこ
いとはのつえりうこうしりこのはの中
はのしこうこうくへとをうくをうくて行をうこり
あこはうこうねこはうしなうゆをうてゆ句しまう
うなうとかてうひのあれんの中さうはうけう
ゆをまもいうりうやはまれはうこうたいうんを
行ひけうをつくつをて行うをこをとそをんこ和ふ
はうう史をのちゆ後の家とい物をへうりてう〇合
たいうんを行つりこつうりて行うれて五十宮殿のかい
なまをこて見りいくまりて